



io.LEAGUE2024開幕記者発表会

12月5日 東京ガーデンテラス紀尾井町 紀尾井町タワー17階 LINEヤフー内「LODGE」



▲記者発表会に出席したio.LEAGUE参加選手と同リーグチェアマンの谷口会長

ボウリング界に “新しい風”吹かせよう!

前号既報のとおり、(公社)日本プロボウリング協会(JPBA/谷口健会長)がプロボウリング及びプロボウラーの認知度向上を目的に創設した新機軸のチーム戦「io.LEAGUE2024」の前期リーグが、いよいよ1月16日に開幕する。ここでは“直前情報”として、12月5日に行われた開幕記者発表会で明らかになった同リーグの概要を改めてお伝えする。

新たな試合方式を導入

初年度のio.LEAGUEは前・後期制で、誕生した3つのクラブチーム(愛媛オレンジサンダース、イグナイト東京、ゼスト大阪・神戸)と、同リーグの組織委員会が編成した3つのモデルチーム(チーム千葉、チーム湘南、チーム福岡)＝別表参照＝が、東西各3チームに分かれて東西対抗総当たり戦(各対

戦3試合)を行い、後期の最終日(8月31日)に1位チーム同士でチャンピオンシップを争う。競技は男女混合4人チーム戦(ベーカー方式/選手の途中交代あり)で、得点はSHOWCASE時と同様「初心者にも分かりやすく、試合時間の短縮が見込める」カレントスコアリングシステムを採用。勝敗は1試合3Gのポイント制(1Gごとの勝ち点2、引き分けは各1。パー

フェクト及び800シリーズ達成時にはボーナスポイント5を加算)で争われる。また、総ストライク数・ストライク率・フレームアベレージ3部門の個人表彰も行うが、同リーグでの成績や獲得賞金は年間ランキングに反映されない。

組織委員会メンバーの徳應和典氏(ヤフーコラボレーション推進部長)は、同リーグのコンセプト及び中長期戦略の紹介のなかで「現在行われている個人競技としての公式戦の隣にチーム戦を加えることで、プロボウリングの魅力をもっと多彩にお届けしたい」と語り、谷口チェアマンは「ボウリングの新しい見せ方を業界の外に向けて発信していければ」と意気込む。

将来的にはリモート対戦に移行

今回は一つの会場に6チームを集めての集中開催で来場観戦はなく、YouTubeチャンネルでのライブ配信のみとなるが、当初検討され、SHOWCASEでテストされたリモート対戦を断念したわけではなく、将来的に移行を目指していくという。



▲SHOWCASE優勝のチーム千葉(写真は23年1月13日、東京ポートボウル)は、当時のメンバーに高田浩規(52期)を加えた6人編成で今リーグに参戦。近くスポンサーが付いてそのままクラブチームに移行する話も進行中という

「クラブ、リーグの収支・体力が調った段階で本格導入に取り組みます。各クラブの拠点ボウリング場で撮影・配信を行い、そのさいは有観客でホームのサポーターによる応援観戦も可能になります」(徳應組織委員)

無論、そうした状況を招来させるためには、クラブ数や参加プロが年々増加し、各地域でクラブファン層が構築されることなどが必須の前提条件で、今回リーグに参戦する6チーム38名のトッププロは、火付けSEでテストされたリモート対戦を断念したわけではなく、期待したい。

☆ 何か新しいことを始めよう

とるときには、必ず反対意見や成功を懸念する声も沸き起こる。io.LEAGUEに関しても同様で、SHOWCASEの開催からこの日の記者発表会までの間、まったくと言っていいほど“新着情報”がリリースされてこなかったこともあってか、今のところはファンの反応も予想以上に鈍い。

だが、施設老朽化やコロナ禍の後遺症によるセンターの閉鎖や大会スポンサーの撤退が相次ぐ昨今、成功への道のりは決して平坦ではないが、失敗は許されないだろう。われわれ専門メディアを含む業界の全関係者が一丸となって、ボウリング界に“新しい風”を吹かせよう!



▲クラブチーム第1号・愛媛オレンジサンダースの越智崇オーナー(東汽船株式会社代表)。ちなみに、ゼクス大阪・神戸のスポンサーは大阪のXEX株式会社、イグナイト東京は株式会社サイトフォーディー傘下に設立された同名の新会社だ

io.LEAGUE2024 出場チームと開催日程	
東	イグナイト東京 藤井信人・藤村隆史・坂本就馬・姫路麗・坂本かや・大嶋有香
	チーム湘南 永野すばる・斉藤琢哉・甘糟翔太・名和秋・小久保実希・本橋優美
	チーム千葉 森本健太・高田浩規・戸辺誠・川崎由意・岩見彩乃・霜出佳奈
西	愛媛オレンジサンダース 山本勲・山下昌吾・和田秀和・三浦美里・山田幸・浅田梨奈・幸木百合菜
	ゼクス大阪・神戸 小原照之・安里秀策・大久保雄矢・寺下智香・久保田彩花・石田万音
	チーム福岡 川添燮太・原口優馬・藤永北斗・中野麻理子・中島瑞葵・原野萌花

【開催日程】前期=1月16日(火)~19日(金) / 後期=8月27日(火)~31日(土) ※無観客開催

WORLD TOPICS 日米プロツアーの賞金額比較 Vol.10 report 山下 知且

2024年のPBAツアーは、1月9日から開催されるPBAプレーヤーズチャンピオンシップを皮切りに、9月まで全20試合で構成されます。そのうちメジャー大会が5試合(マスターズはUSBC主催)。なかでもPBAワールドシリーズの賞金総額はなんと100万ドル。日本円にすると1億5千万円ほどでしょうか。ここで、2023年のPBA賞金ランキングを振り返ってみたいと思います。1位 EJ・タケット

458,450ドル(6876万円)
2位 アンソニー・サイモンセン 347,500ドル(5112万円)
3位 ジェイソン・ベルモンテ 338,825ドル(5082万円)
PBA +50と呼ばれるPBAシニアツアーは、
1位 トロイ・リント 65,000ドル(975万円)
2位 クリス・バーンズ 55,550ドル(833万円)
3位 ジョン・ジャンウィッツ 54,300ドル(814万円)
女子のPWBAは、1位がマリア・ロドリゲスの98,754ド



▲12月18日から21日まで韓国で行われたスチームカップに参戦してきた

ル(約1481万円)で、3位までが9万ドル台でした(ちなみに1ドル150円で計算しました)。

日本でもJPBA2023シーズンが終了しました。賞金ランキングの男子は1位・川添燮太650万円、2位・山本勲551万円、3位・藤井信人498万円。女子が1位・中島瑞葵967万円、2位・名和秋589万円、3位・石田万音482万円でした。為替の変動があるとはいえ、PBAツアーはやはり規模が大きいですね。また日米を比較して面白いのは、日本では男子より女子の試合数が多いのに対し、アメリカはその逆。PBAとPWBA、組織が違うという

こともありますが、日本とは少し様子が違います。JPBA男子ツアーの開幕戦が夏ごろということもあって、今年日本からPBAツアーにチャレンジする選手がいるようです。野球界のように、日本人選手がアメリカツアーを席けんする時代がもうそこまできているのかもしれませんが。

やました・ともかつ
1982年12月5日生まれ、長崎県出身。2000年~2011年 ナショナルチーム在籍。2023年6月から長崎県スポーツ協会理事。全日本ボウリング協会理事。2023年4月から長崎県連副理事長。2022年からIBFアスリート委員。